

学会企画チュートリアル・セミナー 1

研究の再現性を高めるための事前登録の実際

【 企画趣旨 】

学会誌に掲載される論文は、仮説の構成からデータの収集・分析、そして結果の解釈まで、査読者の厳しい目からみて合格とされた論文である。それにも関わらず、このようにして公表される研究結果のかなりの割合のものが、追試によって再現されないことが明らかになり、「再現性の危機」として問題になっている。再現性の低さの主要な要因として、「研究者自由度」が挙げられている。仮説の構成においてもデータの収集・分析においても、研究者は広範な自由度をもっている。その自由度が、たとえば HARKing (Hypothesizing After Results are Known; 結果がわかってから仮説を立てること) や p 値ハッキング (有意な結果を生み出すためにあれこれ工夫すること) につながり、結果として再現性の低い研究を生んでいるというのである。

こうした問題の解決策として、昨年の学会企画チュートリアル・セミナーで取り上げたことの1つが、仮説やデータの収集・分析の方法等を、研究を行う前に登録しておくという「事前登録」である。しかし、事前登録を行うことの研究上の意義はわかって、具体的にどのように行うのか、どのような難しさがあり、それをどのように解決するのか、といったことは十分に知られていない。

そこで本チュートリアル・セミナーでは、実際に事前登録をして研究を行った経験のある3名の方に、それぞれの事前登録の実体験や、その中で考えたことなどについて話題提供していただくこととした。そして、指定討論・全体討論を通して事前登録に関する理解を深め、研究の質の向上につなげていきたいと考えている。